

## 生徒が意欲的に事実や考えを相手に的確に伝える表現の仕方を身につけていく新聞活用

指定校 1 年次 長野市立犀陵中学校 佐藤 裕美

授業実践者 遠藤由香里

### 1 本校の N I E の現状

N I E に関わる取り組みとして、本校では社会科を中心に、新聞の校内掲示や授業での新聞記事の補助資料としての活用等を行ってきた。しかし、他教科や領域での活用は、あまり行われてこなかったのが現状である。本年度、N I E の研究指定校をさせていただくにあたり、新聞活用を他教科、領域に広めていくことをまず進めていきたいと考えた。そこで本年度は、国語科において新聞を活用して確かな国語力を高めていきたいと考えた。

新聞に関わる生徒の実態としては、授業学級では全員の家庭で新聞を購読している。さらに、4分の3の生徒は月に数回以上は新聞に目を通しており、4分の1の生徒は、ほぼ毎日目を通してしている。総合的な学習の時間でスクラップ作りの活動を行ったときも、全員が意欲的に新聞を手に取り、記事の切り抜きを行った。このように、新聞は生徒たちに身近で抵抗感なく手に取ることのできるものであると思われる。

本校の国語科では、書くことの学習において、様々な文章表現の方法を身につけ、目的や意図に応じて、構成や展開、表現の仕方に気をつけて的確に表現する能力を身につけ、進んで文章を書いて自分の考えを深めていく生徒の姿をめざしている。このような立場で、生徒が意欲的に目的や意図に沿った表現の仕方を身につけていく指導のあり方を中心に研究を進めてきた。今年度は、1 学年において、これまで生徒が学習してきた文章の種類に加えて、新聞記事（報道文）を学習し、事実や考えを相手に的確に伝える表現の仕方を身につけさせたいと考えた。そこで、新聞記事（報道文）をモデルに新入生に学校のことをわかりやすく伝えられる学校紹介を作成することを目的として単元を展開した。

### 2 N I E 実践のねらい

新入生への学校紹介のために、現 2 年生は、昨年度の 1 1 月、新入生向けに「犀陵中学校百科」作りに取り組んだ。これは、各教科の様子や行事などについて学年全員が 1 項目を分担し、図やイラストを入れながら紹介文を作成したもので、新入生に 1 冊ずつ配布した。生徒は、どのようなものを作ればよいかはイメージできており、自分たちが知っている事実を後輩に伝えることができるということで、意欲的に紹介文づくりに取り組むことができると考えられる。

本単元では、まず、新入生への学校紹介をするために、学校紹介に適した文章のスタイルとして報道文（新聞記事）を生徒とともに決めだすところから入る。そして既習の序論・本論・結論で書かれた説明的文章と比較し、報道文の特徴を理解していく。その後、報道文のスタイルを生かしながら分担された項目について意図に応じ文章を書いていけるようにする。

このような学習を通して、生徒は文章を書く意欲を高め、相手に自分の考えを的確に伝える文章を書く力を養うことができると考えた。

### 3 研究の概要

#### (1) 実践した教科

国語科および総合的な学習の時間

## (2) 新聞の提供状況

新聞については教室や廊下に掲示。スクラップブックを活用して、自分が気になったり、興味を持ったりした記事をスクラップし、感想等を記入していくことを一定期間継続した。

## (3) 新聞をとり入れた実践をする上での工夫

### ①新聞を教材としてつきたい力を決めだす

新聞記事の書き方には次のような特徴がある。

- ・ 逆三角形型の構成である（見出し→リード文→本文）。
- ・ 見出しがあり、そこさえ読めば記事の内容がつかめる。
- ・ 5W1Hが明確である。
- ・ 3C＝明瞭、正確、簡潔
- ・ 一文が短い（およそ50字以内）。

説明的文章や意見文が事実（根拠）をもとに自分の意見や考えを述べるためのものであるのに対して、一般の新聞記事は報道文であり、事実（情報）を正確に読者に伝えるために書かれているものである。目的に応じて文章の書き方も変わる。そのことに気づき、自分たちが文章を書くときに、どの書き方で書くのが自分の目的に合っているかを考え、選択する力を養いたい。

本単元では、新聞記事とこれまで学習してきた説明的文章を比較し、構成の違いを考えさせたい。説明的文章や意見文がたいてい「序論→本論→結論」や「問題提起→解明→答え」という構成であるのに対し、報道文は「見出し（要点や読み手の興味を引くもの）→リード（結論や全体的なこと）→第2文以降（説明、理由などの補足や部分的なこと）」という伝えたい事実（情報）を最初に書き、後で詳しく説明するという逆三角形型の構成で書かれている。実際にこれらの文章を比較して読むことで、報道文の方が読み手の知りたい情報が端的でよりわかりやすく書かれていることを理解する。その上で、自分たちがこれから書く文章をどう書き進めればよいかを考え、新聞記事と同じような構成の「報道文」を書く力を身につけさせたい。

### ②本単元における新聞の扱い方

新聞記事の書き方を考えさせるために、モデルの新聞記事と説明的文章を比較させる。生徒が総合的な学習の時間で作ったスクラップブックの中から新聞記事の逆三角形の表現の仕方に沿って書かれた記事（見出し→リード文→本文）を切り抜いたものを使い、モデル記事とする。その記事と同じ内容を扱った説明的文章を作成し、モデル文とする。1学期に学習した説明的文章の表現の仕方を想起させながら、二つの文章を読み比べることによって違いを理解させていく。

## 4 N I E 実践の内容

(1) 単元名・学年 「わたしも新聞記者！」・1年（6時間扱い）

### (2) 単元の具体目標

- ①学習した逆三角形型の書き方を用いながら、新入生に向けた学校の紹介文を伝わりやすいように工夫して書こうとする。
- ②説明的文章と新聞記事を比較して、新聞記事の逆三角形型の書き方についてワークシートにまとめることができる。
- ③自分の分担項目について、日時や場所などの細かな情報や、自分や友達の感想など、必要な情報を書きだすことができる。
- ④新聞記事の書き方を生かし、最初に5W1Hなどの必要な情報をおき、詳しい説明や感想

などの補足情報を後に付け加えた紹介文を作成することができる。

### (3) 単元の教材化

#### ①「犀陵中学校紹介冊子」作りについて

これまでの国語学習では、意見文を書く単元において自分の考えをもつことに苦手意識があり、書く材料を構想メモに書きだすことに苦勞する生徒が多かった。また、事実と意見を整理するなど構成を考えることが苦手な生徒も多かったため、今回は書く順番に重点を置いて文章を書かせていく。学校の紹介という目的があり、読み手や書く題材も決まっているため、材料集めに苦勞する生徒は少なく、また、集めた材料から、「全体→部分」「結論→説明」のような順番の構想をもって書いていくことができるのではないかと考えられる。

本年度は、二人で1ページを分担し、一人あたり半ページ(本文で500字～600字分)を担当するようにする。限られた字数で伝えたいこと(読み手の知りたいこと)を書くため、より大切なことは何か、どんな構成で書くのがよいのかが自然に各自の課題となって、主体的に学習に取り組めるのではないかと考える。また体験文やエッセー風など、報道文以外の書き方が得意な生徒も意欲が持続できるように、記事は2本立てでもよいことにする(条件として報道文を400字以上書く)。

#### ②新聞記事に関して指導・支援すること

	説明文	新聞記事	指導・支援
構成について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・序論(問題提起)から本論が書かれている。</li> <li>・結論が最後にあることが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大事な情報は最初にある。</li> <li>・とりあえず最初にざっと全部説明しておいて、後で詳しく書いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リード</li> <li>・逆三角型の書き方</li> </ul>
内容・意見について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言いたいことは筆者の意見であり、それが全体のまとめとなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見はなく、事実を具体的に書いている。</li> <li>・時間や場所などが詳しく書いてある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報道文の書き方の特徴(事実を詳しく)</li> </ul>
その他の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後まで読まないで結論がわからないことが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見出しがある。見出しだけ読んでも、だいたい伝えたい内容がわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすく端的な内容と表現</li> </ul>

### (4) 本時の教材化

本時では、まず1学期に学習した説明的文章の構成を想起させる。説明文の序論・本論・結論にはそれぞれ「問いかけ、投げかけ、疑問」「事実の説明、例示、たとえ」「筆者の言いたいこと、まとめ、疑問に対する答え、筆者の意見」が書かれていることを学習した。それを確認したところで、「新聞記事を読むとき、何を探して読めば説明文の構成と同じかどうか分かるかな?」と投げかけることで、生徒は「説明文の序論・本論・結論に書かれていること」を新聞記事の中から探し出そうとするだろう。

個人追究の場面では、形だけ見れば序論に見えるリード文の内容が全体の要約であることや、説明文では結論だった最後の段落に筆者の意見が書かれていないことで、生徒は「序論と結論がどこにあるか分からない」「結論がない」または、「説明文でもそうだったから、結論は最後の段落」「意見はないけどまとめている文があるから結論は最初の段落」などといった反応をすることが予想される。そこで、結論の位置について迷ったり、意見が違ったりする生徒を指名し、リード文の内容と結論の位置を全体の課題としてグループ追究に移らせる。生徒はまとめている文が最初に入っていることや、見出し中の言葉がリード文に使われていることに着目して意見交換をし、最初に伝えたいことを簡潔に書き、後で詳しく

説明していく逆三角形型の文章構成に気付いていくだろう。

(5) 単元展開

50分授業 全6時間扱い 本時は第2時

時	学習活動	教師の指導・支援
	単元のめあて：新聞記事の書き方を使って、犀陵中学校を紹介する文章を書こう。	
1・2 (本時)	1 新聞記事を読み、今まで学習してきた説明的文章との違いを考える。 2 新聞記事の書き方を説明的文章と比較してとらえる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物事についての情報を紹介したり、伝えたりするものにはどんなものがあるかを問い、新聞は読者に情報を伝えるためのものであることに気付かせる。</li> <li>・モデルの新聞記事を読み、伝えたい情報がどこにどのように書かれているかを考える。</li> <li>・説明的文章では言いたいことをわかりやすく伝えるために筆者がどんな工夫をしていたかを想起して、グループでモデル文と新聞記事と比較させ、新聞記事の書き方に気づかせる。</li> <li>・最初に伝えたいことを書く新聞記事の書き方を使うと読者に情報が明確に伝わりやすくなることに気付かせる。</li> </ul>
3	1 紹介項目を考え、分担を決める。 2 記事に書く材料を集める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の「犀陵中学校百科」などを参考に紹介項目を決めだして分担させる。</li> <li>・分担された項目について、記事を書くために必要な情報(5W1H)や自分の感想・考えなどについてのメモを作成させる。</li> </ul>
4	1 集めた材料をもとにして、文章構成を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2時目に考えた新聞記事の書き方に沿って、集めた材料をどの順番で書いていくかを構成表にまとめさせる。</li> <li>・2時目に考えた新聞記事の書き方から、自分の紹介文に使えるようなことを取り入れさせる。</li> </ul>
5・6	1 下書きを作成する。 2 友達と作成した文章を読み合い、新聞記事の書き方に沿って書いているかを評価しあう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成表をもとに下書きを作成させる。</li> <li>・グループで下書きを読み合い、新聞記事の書き方に沿った書き方ができているかを考え、アドバイスを記入させる。</li> <li>・アドバイスをもとに下書きを推敲し、清書させる。</li> </ul>

(※総合的な学習の時間 単元展開 6時間扱い)

時	学習活動	指導・支援
1・2	1 スクラップブックに気になった新聞記事を切り抜いて貼り付ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞から自分の気になる内容の記事を自由に選び、スクラップさせる。</li> <li>・友だちとスクラップブックを見せ合い、感想を交換させる。</li> </ul>
国語 単元展開参照		
3・4・5	1 下書きを新聞用原稿用紙に清書する。 2 清書した原稿を読み、校正する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語で完成させた下書きを使って原稿用紙に清書させる。</li> <li>・写真、イラストなどを効果的に取り入れさせる。</li> <li>・完成した原稿を互いに読み合い、誤字脱字などの最終チェックをさせる。</li> </ul>
6	1 完成した原稿を印刷し、製本する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷した原稿を製本させる。</li> </ul>

(6) 本時案

①主眼

来年度の新入生に向けて、新聞記事の書き方を参考にしながら犀陵中学校を紹介する文章を書こうとしている生徒が、新聞記事の書き方を考える場面で、新聞記事の中で見出しと同じ内容が書かれている部分を探してラインを引き、気づいたことをグループ発表し合っって説明文の構成との違いを話し合うことを通して、情報を正確に伝えるための新聞記事の書き方に気づくことができる。

② 展開

	学習活動	予想される生徒の反応	・支援 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価</span>	時間	備考	
導入	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">学習問題：新聞記事と説明文の構成はどう違うのだろうか。</p> <p>1 説明文と新聞記事の構成が違いそうなので、本時は新聞記事の構成がどうなっているかを考えることを確認する。</p>		<p>ア 説明文は「序論・本論・結論」になっていたけど、新聞記事は違うかもしれない。</p> <p>イ 新聞記事は見出しに伝えたい事実があったんだっとな。どんな構成になっているんだろう。</p> <p>ウ 新聞記事は後の方がなんとなく詳しく書いてある気がするな。</p> <p>エ 見出しで書いたことについて、一つずつ違う内容に分かれている感じがするよ。</p>	<p>・前時、説明文と新聞記事の構成が違っていきそうだとすることに気づいたことを思い起こさせる。</p> <p>・「新聞記事はどんな文章構成になっていきそうかな？」と問い、ウやエのようなことに気づけている生徒を指名する。</p> <p>・「本当に見出しの内容が一つずつ出てくるのか確かめてみよう」と促し、学習課題を設案する。</p>	7	前時のワークシート
展開	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">学習課題：新聞はどんな構成になっているかを、見出しと同じ内容が書かれている部分にラインを引いて考えよう。</p>					
	<p>2 モデル記事を読み返し、同じような内容が書かれている部分を探してラインを引き、気づいたことを学習カードに書き込む。</p>	<p>オ 映画「八日目の蝉」のロケについてはいろいろな段落に説明が書かれている。ほとんどの段落に線が引けそうだな。</p> <p>カ 見出しの「成島監督 貴重な建物」は第1段落にそのままあるし、第5段落にも成島監督の言葉があるな。同じ色で線を引いてもいいかな。</p> <p>キ 第1段落に全部の色の線が引けたぞ。見出しの伝えたい内容が、第1段落にも全部文章で書かれているんだ。</p> <p>ク 第1段落以外は全部の色が引けた段落がないな。第1段落と見出しの内容は同じということかな。</p> <p>ケ 後ろの方の段落は1色しか線が引けなかったなあ。</p> <p>コ 後ろの方は、一つの段落に見出しの内容が一つか二つ入っている感じだ。でも、後ろの段落に書いてあることの方が見出しよりずっと詳しいな。</p>	<p>・最初に黒板のモデル記事を使ってやり方を示す。(エキストラの部分)</p> <p>・同じような内容が書かれている部分を探して、内容別に色分けしながら線を引かせる。</p> <p>・どうしてもうまく線が引けない生徒には、同じ言葉を探させる。その際、見出しの言葉に注目して線を引かせる。</p> <p>・それでもうまくいかない生徒には、あらかじめ色分けした新聞記事を渡す。</p> <p>・線を引いたら、その段落の下にどの見出しと同じ内容なのかを書き込ませる。</p> <p>・色分けした記事を読んで、気づいたことをワークシートに書き込むよう促す。</p> <p>・何も書けない生徒には、それぞれの色の位置を見て気づいたことを書くように助言する。</p>	20	実物投影機 色分けしたモデル記事	

	<p>3 グループで気づいたことを発表し合い、ワークシートに新聞記事の構成を話し合っ て記入する。</p> <p>4 グループでまとめた構成を発表する。</p>	<p>サ 最初にまとめておいて、後の方で一つ一つのことについて詳しく説明しているんじゃないかな。</p> <p>シ 説明文は「問いかけ→説得力をもたせるための例→言いたいこと」だったけど、新聞記事は「伝えたいこと→伝えたいことをまとめた文章→詳しい説明」だと思う。</p> <p>ス 新聞記事は「見出しが短い言葉のまとめ→第一段落が文章でのまとめ→第二段落から説明や誰かの感想」だと思う。</p> <p>セ 見出しに書いてあることを、最初に文章にしてまとめているんだ。その後さらに詳しく説明しているんだな。</p> <p>ソ 説明文は自分の考え、新聞記事は事実を伝えるために書くから、構成も違ってくるんだな。</p>	<p>・4人グループで自分の気づきを発表し合い、新聞記事の構成がどうなっているかを話し合っ てカードに書き込ませる。</p> <p>・うまくいかず困っているグループには、まとめている段落がどこかを理由も含めて考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>説明的文章と新聞記事を比較して、新聞記事の逆三角形の書き方についてワークシートにまとめている。</p> </div> <p>・グループの意見を、カードを見せながら発表させる。</p>	<p>10</p> <p>8</p>	<p>班の考え記入用カード</p>
<p>終末</p>	<p>5 今日の授業で分かったこと、感想を記入する。</p>	<p>タ 新聞記事は伝えたいことを最初に書いて、後で詳しく説明していく構成だということがわかった。</p> <p>チ 大切なことが最初に書いてあると何の話か分かりやすいし、読む方も読みやすいと思う。</p> <p>ツ 新入生は正確な情報を知りたいと思うので、紹介文を書くときに新聞記事の書き方を使って書いてみたい。</p>	<p>・ワークシートに本時の感想を記入させ、数名に発表させる。</p> <p>・次回はいよいよ自分たちで紹介文を書いていくんだということを伝え、次時への意欲を持たせる。</p>	<p>5</p>	

③指導上の留意点

ラインを引く活動を行う際に、困っている生徒が多いようであれば、様子を見てラインを引けている生徒のものを実物投影機で写して引き方を説明させる。

(7) 授業の実際

展開前半の「見出しに色をつけ、記事（本文）の同じ部分にも色をつける」活動では、教師の側では、「見出し→リード（1段落）→記事」と順を追って詳しくなる書き方に気付いていけると予測していたが、個人では進められない生徒が多く時間を要した。何（内容か語句か）に着目すればいいのか戸惑っていた姿や、多くの生徒が数カ所のうち一つの記事だけに色をつけて終わりにしていた姿が見られた。

これらの要因として、一つ目の読む着目



見出しに色をつけ、記事（本文）の同じ部分にも色をつける

点については、内容を読み取らせるねらいから明確に指示しなかったのだが、文章量の多さから難しかったと思われる。二つ目の一カ所しか印が付けられなかったことについては、初めの指示不足もあるが、語句や部分のみでとらえていて、内容全体との関わりでとらえて読める生徒が少なかったためと思われる。しかし、机間指導での支援や助言を受ける中で印を付けていく生徒の姿が見られ、第1

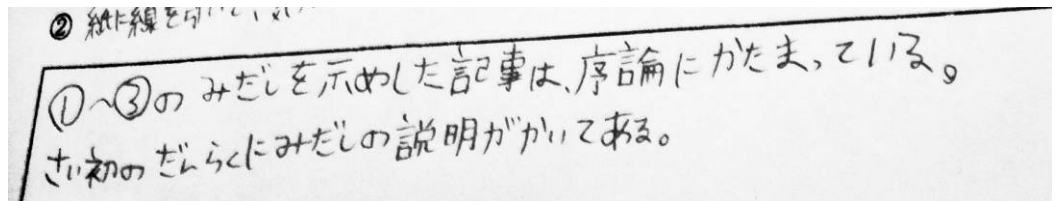


机間指導での支援や助言

段落の重要性

に気付いてい

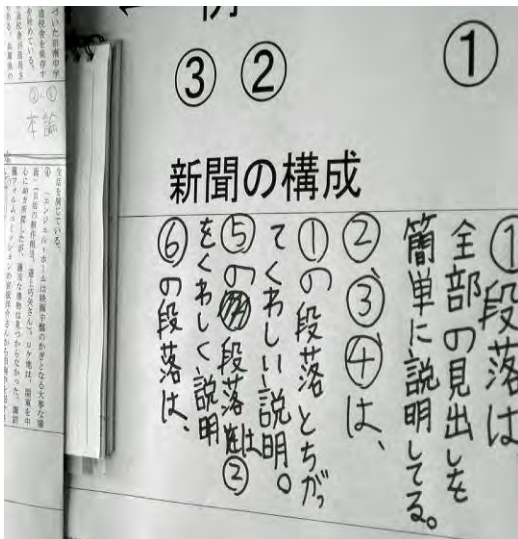
けたと思われる。展開後半の「グループで話し合い新聞記事の構成を考える」活動では、意見交換の中で「見出し→いいこと（リード＝1段落）→詳しい説明（記事＝2～6段落）」、「いいことが先の方に書いてある」という構成に気づいていけたグループが多く、そうした発表もできた。その前の色をつけた活動が生きていたように思われる。



第1段落の重要性に気づいていったワークシートの記述



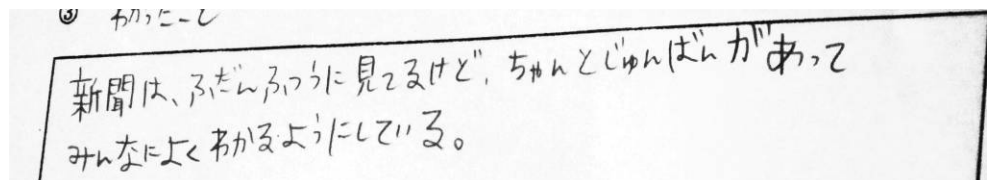
グループでの意見交換の内容をまとめる生徒



発表用カード

発表用カードは、説明文との違いを明らかにするため上段に「説明文の構成 問いかけ→例→意見」と書いておき、下段に「新聞の構成（記入スペース）」としたが、記事の構成についてどんな言葉を使って書けばいいのか（「例、体験、意見」など）戸惑ったグループも見られた。自分たちの言葉を使って表現してよいことを指示するなどすればよかったと思われる。また、話し合いの前に、新聞記事のいいことは主張ではなく事実であることを確認しておけば、グループの話し合いに全員が同じ土俵で参加できたのではないかと思われる。

グループの発表を自分たちの考えと比較しながら聞き、本時の終末時に、今日の授業で分かったこと、感想をワークシートに記入した。その中には新聞記事の書き方の特徴や工夫について



本時終末時の生徒のワークシートへの記述

気づいた記述内容が多く見られ、新聞記事の情報を正確に伝えるための新聞記事の書き方に気づくことができたのではないかと思われる。

## 5 研究のまとめ

### (1) 成果

- ① 新入生に向けた学校紹介を報道文として書く単元を設定したことで、生徒は主体的に学習に取り組んでいた。また、国語科から総合的な学習の時間と関わらせて、新聞づくりに取り組むことで、より確かな情報活用力やコミュニケーション力、表現力、判断力の高まりも期待できる。
- ② 序論・本論・結論という説明的文章・意見文以外の構成があることが理解できたとともに、伝えたいことが何かによって、適した文章の種類があることも理解できた。また、5W1Hの要素や新聞の構成を学んだことで、事実と意見の違いを区別して読み取る力も高まっているように思われる。

### (2) 課題

- ① 目的にそった読み方（精読でなく大まかに速く読む）をしたり、伝えたい順番があつてそのように書かれているという新聞の書き方の特徴を知ったりするのも大切な学習といえる。新聞を使った学習では、さらに一般記事、主張やコラムの書き方の特徴にも気づいていけるようにしたい。
- ② グループの話し合いでは、「点という語句だけで読んでいる生徒」「全体との関係をつかんで面でとらえている生徒」がいた。面でとらえられると同じ内容の部分に印がつけられる。面でとらえるには、段落というまとまりを意識し、一段落一内容の学習が必要となる。そうした力をつけるにはどう指導したらいいか研究したい。
- ③ 新聞を通し、問題解決の思考力・表現力や周囲とのコミュニケーション力、情報処理能力などを身につけていきたい。生徒の実態に即して、新聞の幅広い可能性を教室でどう活かしていくのがいいか考えていきたい。

## 6 残された課題

国語科以外の教科領域における実践を広めていきたい。毎日更新される情報源としての新聞の特徴を生かした実践を試行錯誤しながら開発したい。



## 7 資料（教材文の分析）

説明的文章（自作）	構成・働きなど	考察
<p>新発売のお菓子を買ったり、新しくオープンしたお店に行ったりと、私たちは新しいものに対して強く興味を抱く傾向がある。では、古いものに対してはどうだろうか。</p> <p>今年3月末に閉校となった富士見町烏帽子の旧南中学校の木造校舎を利用し、映画「八日目の蟬」のロケが行われている。成島出監督はこの木造校舎に対して「貴重な建物」と話している。スタッフは「照明を変えるだけでさまざまな施設として映画に活用できる」と、この木造校舎を絶賛した。</p> <p>このように、閉校となった木造校舎は新しく他の目的で利用されて、その魅力が認められている。実際に、木造校舎の良さに気づいた旧南中学校の卒業生が、木造校舎を保存するために署名運動を始めている。</p> <p>古いものにも意外な良さがあるかもしれない。古かったり使われなかったりするものを、利用価値がないとすぐに決めてしまっではもったいない。古いものの価値を見つめ直し、大切に作る気持ちが必要だ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・序論（問題提起） 「古いもの」への興味を持たせる働き。</li> <li>・本論（具体例、根拠となる事実） 旧南中学校の木造校舎 ↓ 映画のロケ スタッフの絶賛 他の目的で利用 署名運動</li> <li>・結論（まとめ） 古いものにも意外な良さ、価値を見つめ直し大切に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問いかけの文末表現で興味を持たせようとしていることに気づかせたい。</li> <li>・結論とのつながりから、事実の羅列でなく、結論を言うための根拠であることをつかませたい。</li> <li>・考えを述べる文末表現（～だ）から、言いたいことをまとめていることに気づかせたい。</li> </ul>

新聞記事（10月9日 土 中日新聞）	構成・働きなど	考察
<p>「木造校舎で撮影快調 旧南中学校 映画『八日目の蟬』ロケ 成島監督『貴重な建物』 地元エキストラも熱演」</p> <p>今年3月末で閉校となった富士見町烏帽子の旧南中学校の木造校舎を活用し、映画「八日目の蟬」のロケが9日まで行われている。校舎や中庭など敷地全体を利用。6日間のロケには諏訪地方を中心に公募した女性と女兒のエキストラ52人も参加した。木造校舎の魅力を生かした撮影で、成島出監督は「貴重な建物」と話し、同校OB、OGが始めた保存運動に署名したという。</p> <p>映画は角田光代さんの同名小説が原作。主演の井上真央さんや、永作博美さん、小池栄子さんらが出演する。旧南中学校舎は、永作さん演じる女性が不倫相手の赤ん坊を連れ去り、一緒に逃げ込んだ施設「エンジェル・ホーム」の想定。現代の駆け込み寺では多数の女性たちが共同生活しており、女優陣とエキストラの女性40人、女兒12人が施設の生活を演じている。</p> <p>「エンジェル・ホームは映画中盤のかぎとなる大事な場面（日活の制作担当、道上巧矢さん）。ロケ地は、関東を中心に40カ所探したが、適当な建物は見つからなかった。諏訪圏フィルムコミッションの宮坂洋介さんから旧南中を紹介され、「ここ以外にはないと確信した」。8月上旬に視察した成島監督も了承。長い廊下の場面を加えるなど脚本を手直しした。</p> <p>木造校舎は「照明を変えるだけでさまざまな施設として映画に活用できる」とスタッフは絶賛した。成島監督は「地元で保存の署名活動を行っている」と聞き、すぐにサインしました。道上さんは「署名活動の代表者の名前がエンジェル辛さんということも縁を感じます」と語った。</p> <p>8日は校舎2階の旧図書館で共同生活の場面を撮影した。前日までには永作さんが子どもを連れて施設を逃げだす場面、成長した子どもが廃墟となった施設を訪ねる場面などを撮影した。エキストラとして参加した岡谷市堀の内の柴田有美さん（23）は「母に勧められて応募した。初の体験で緊張しました」と話していた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見出し 重要語句が使われ、全体の要点となっている。</li> <li>・リード 全体の要約</li> <li>・本文（具体的な内容） 出演者 ストーリー</li> <li>ロケ地として紹介</li> <li>木造校舎の利点と署名運動</li> <li>撮影の場面と出演者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大事なことを簡単に書いていることから、要点だと気づかせたい。</li> <li>・序論か迷うかもしれないが、使われている語句や序論に関わる内容と対比することで、要約・結論だと気づかせたい。</li> <li>・「する、ている」などの文末から事実を伝えていることをとらえさせたい。</li> <li>・数字を使うなど事実を具体的に詳しく述べていることにも気づかせたい。</li> </ul>